

ひと街しごと

平成15年(2003)12月 (年4回発行)
発行：(株)印刷紙工
札幌市中央区南15条西18丁目
Tel(011)561-3597

編集：ひと街しごと刊行会
札幌市中央区北1条西17丁目
北海道不動産会館4階
(有)編集工房海内 Tel(011)623-6652

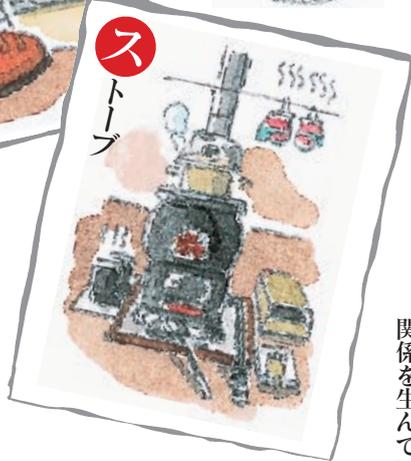
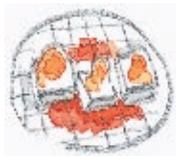
No. 6



寒かったけど

あたたかかった……

歴史はいつも未来へのみちしるべです。
世の中の進むスピードと自分の生きていくペースが、
少し合わなくなってきたなと感じ始めたら、
思い出カードを一枚一枚くっつけていきましょう。



銭湯の帰り道に髪の毛やタオルがバリバリに凍った、なんていう思い出はありませんか。それほど街が寒かったのは、人も車も少なかったからでしょう。だからといって人と人のつながりが薄かったといえ、むしろ人口密度が高くなり、IT化も進んだ、暖かい現代都市の方が、よほど冷たくて希薄な人間関係を生んでいるようです。

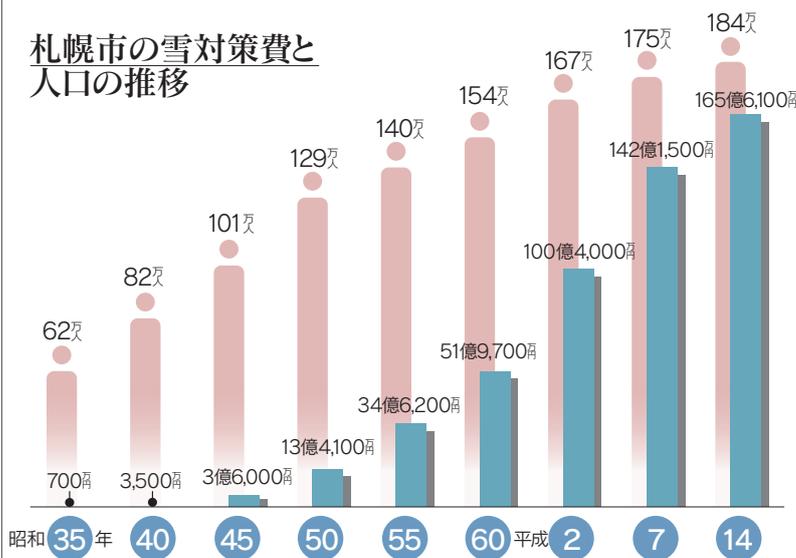


思い出カード

生活編②



札幌市の雪対策費と人口の推移



除雪今昔

ひとたび荒れれば 現代でもお手上げ

札幌市の雪対策費、いまや百六十五億円

地震や台風の被害にあう度に
とうてい自然にはかなわないというのが実感です
では北国の宿命、雪はどうでしょうか
どこの都市もコンピュータ化が進み
生活のあらゆる面で便利になりましたが
冬になれば除雪の日々というのは
あまり変わっていないようです
札幌の除雪今昔を――

最も記憶に新しい雪害、それは平成八年(一九九六)一月のことでした。「冬台風「道央まひ」」「札幌、市電とバス運休」「JR運休536本、札幌市が緊急対策本部」「現場に着けぬ除雪車」(道新、一月九〜一〇日)――新聞の見出しを拾っただけでも、その猛威がよくわかります。

もう少しさかのぼって昭和四十二年(二九六七)一月。同様に「札幌市内は交通マヒ」「国鉄五九一本運休」「除雪お手上げ、万策つきた市当局」「これでいいのか除雪対策」人災だ「と怒る」(同一月七〜一〇日)。
両年の間に約三十年の時の流れがありますが、ひとたび大雪に見舞われた

ときの大都市のもろさに変わりはないようです。とはいえ札幌市の除雪対策が年々拡充されてきたことは周知のとおり。きっかけがこの昭和四十二年一月の豪雪でした。すでに前年、冬季オリピック札幌開催が決定しており、オリピックは大丈夫かと、誰もが思ったことでしょう。

札幌市が初めて除雪機械を購入して、除雪に関する調査、研究を始めたのは昭和二十五年(一九五〇)のことです。第一回札幌雪まつりが開催された年でもあり、市民生活と雪との関係によりやく関心が高まってきたということでしょう。そして除雪費が初めて予算づけされたのが二年後の同二十七年。その額、百七十万円でした。

札幌オリピック成功の一因は除雪体制の確立でしょう。しかし続いて始まる札幌市への人口集中で、毎年の除雪予算増加も避けられないものとなりました。

ちなみに平成十四年度の雪対策予算は百六十五億六千万円。これは新たに小学校を七、八校建設できるほどの額で、市民一人当たり九千円にも。また留萌市の歳入千三年度にも匹敵します。
今後札幌市に人口が集中するかがきり、「雪、なんとかならないの?」という市民も増え続けることでしょう。

写真右上＝平成八年一月の北海道新聞から。同左上＝昭和三十年頃の札幌駅前前の除雪。「雪トピア21」札幌市から

長い文章を 書かなくても

自分史はできる

出会った人や写真を中心に

「昭和の暮らし」展の大盛況。
行き着くところを知らないIT社会とは

逆行するような動きですが、

いまだから残しておかなければならない、
知らせておかなければならないという気持ちの

表われともいえるでしょう。自分史づくりも同じです。

いま、あなたが取り組まなければ、誰も代わりにやっけてはくれません。

その自分史づくりを、視点を変えて面白くというガイドです。



自分史づくりのスタートは、まず
自分史年表を作ることから。さらに
資料集め。次に出来事にランク付け
してヤマのウエイトをきめ、全体の
章立て（目次づくり）を。そして原
稿書きに入ります。

こうしたABCについてはある
程度の知識を持っている人は多い
でしょうし、小社でも機会あるごと
にアドバイスしてきているところ
です。しかし、つくりたいのだけれど
文章がどうも、という人もまた多く
見かけます。

楽しみながらつくる

自分史というと、どうしても生ま
れてから今日までの歩みや貴重な体
験を、起承転結を踏まえながら記述
していくというイメージがあるだけ

に、長い文章を書かなければいけな
いということが先に立ちます。

とはいうものの、百ページ程度
の本にするのでも、四百字詰め原稿用
紙に百五十枚は必要となると、なか
なか筆は進みません。この枚数はブ
ロでもいささか骨の折れる作業です
から。

そこで短い簡単な文章で全編を構
成する方法を考えてみましょう。ま
ず仮のタイトル「私の出会った五十
人」。自分の思い出に残る五十人を、
見開き（二ページ）に一人ずつ記述し
ていけば百ページになります。一
人当たり約千二百字、これなら書け
るでしょう。大切な人にはたくさん
ページを割くことになるでしょうが
、人数を減らすか、ページ数を増
やすかご随意に。

聞き書き、代筆も

これは、写真を主体にしても同じ
です。どのお宅にも五十枚くらい
の思い出の写真はあるでしょう。こ
ちらも見開きに写真一枚と、説明を
付けていけば百ページになります。

そのほか、一人で全部書こうと
しないで、家族や親戚に寄稿しても
らったり、代筆してもらったりとい
う方法も。全体として自分史に仕上
がつていければよいのです。

その代筆に関連してですが、最近
よく耳にする言葉に聞き書きとい
うのがあります。文字通り、質問、応
答の繰り返しの中から、その人の人
生や仕事を記述していくもの。一人
ではなかなか思い出せないことも、
人から「あのとき、どうでした」と
聞かれると思いつくものです。

自分の本より先に高齢の親の本を
まとめたというとき、あるいは自分
分は病に伏しがちだからというとき
などには、この方法が有効です。ま
たお年寄りを生き生きとさせるとい
う意味からも、この聞き書きがとて
も効果があるといわれています。

昔のことをおしゃべりするときは
誰だっけ目が輝くもの。まして舞台
装置があればなおさら？ 実際、洗
濯板やバリカン、尋常小学校の教科
書などをセットにして貸し出して、
昔を思い出して元気になってという
自治体もあるくらいです。

聞き書きといっても、長いものに
なればプロの手助けが必要かもしれ

ません。こちら側の年表や資料、写
真類を提供して、的確な質問で忘れ
かけていた人生のひとこまを思い出
してもらいましょう。

生涯のうちで最も気に入った数枚
の写真だけを豪華なミニアルバムに
して、限られた人に配っている人も
いるそうです。自分史には様々な方
法があるということ。ユニークな本
を考えてみてはいかがでしょうか。

「あなたの原稿を出版」 書店販売魅力だが……

「出版する原稿を探しています」
「あなたの原稿を出版します」
こんなキャッチフレーズの広告を
見かけることが多くなりました。
なかなか書店に並ぶことのない自費出版物を
流通ルートに乗せてくれるのは大きな魅力ですが、
費用負担などをめぐってトラブルも起きているようです。



自分史など著者が印刷の費用を持つ
自費出版に対して、出版社が企画、
編集、販売まで手がけるのが商業出版と
いわれるものです。

この自費出版と商業出版の間に位置す
るといえるのが、共同出版とか協力出版と
いわれる形態。広告で「あなたの原稿を本
にします」とうたっているものです。活字離
れが進んでいるにもかかわらず、一年間に
一億点もの出版物が出回れば、本という商

品をいかに売り出すかに腐心した結果とい
えるかもしれません。

そのシステムは、一般から原稿を集めて、
売れそうな内容なら相談、アドバイス、打
ち合わせとなるのが一般的のようです。出
版社の審査で、まず間違いなく売れるとな
れば著者の負担はゼロ。手直しが必要な内
容なら、その程度に応じて著者の負担が変
わってくるということ。

いずれにしても、出版社が書き方、構成、

タイトルなどに、売れるためのノウハウを
つぎ込みます。本の流れは、出版社→取次
会社→書店というルートですが、売れそう
にない本なら取次店も扱ってくれませんが、
出版社も力を注がざるを得ません。

しかし、費用分担は数字ではっきりして
いるとしても、どこの書店でどういう売ら
れ方をしているかということなど、素人
には皆目わからないこと。契約にあたって注
意すべき点は多いようです。

本・づ・く・り 相談室



Q 早く作りたいが 印刷期間は――

苦勞しながらもようやく原稿完成の目処がつかしました。予定より大幅に遅れていますので、できるだけ早く本にしたいと思っていますが、どのくらいの期間が必要なのでしょう。

と8週間、2カ月とはじき出されます。

しかしこれはあくまでも目安であり、校正に手間取って流れが滞ったり、大幅な直し・変更、写真の追加・差し替えなど、様々な要因で一定していません。

また、前号でも述べましたが、プロの目から見て原稿を手直した方がよい場合には、組版に入る前にそのための時間が必要でしょう。

肝心なことは、印刷会社に原稿を渡した後に、変更・追加など大きな直しをしないことです。できるだけ完全なかたちで原稿をおろしたいものです。

A 直しを少なくして ざっと2～3カ月

原稿がどのような状態で入稿されるのかわかりませんが、印刷会社がすぐ組版の作業に入れる場合をあげておきましょう。

ページ数や部数にもよりますが、①組版10日間②初校(著者校正)2週間③初校直し1週間④再校正1週間(文字校正了)⑤製版・青焼校正1週間⑥印刷1週間⑦製本1週間――で、ざっ

ここで調べる――行政情報センター

道や道内自治体、 札幌市発行者が

古本や資料、はたまた骨董品など、関心のない人からみ

う意味でも、この方面の資料を見たくなくなったときに覚えて

れば、こんなものがどうし
て必要なの、
というものは
たくさんあり
ます。そうい

おいてよいのが、行政情報センターです。

北海道のそれは中央区北三三七の道庁別館(写真下)三階に、道や市町村の発行者を中心に、国の統計、本州各県の発行者などがあります。とくに二百二十市町村のパンフレットが一堂にそろっているのはここならではの。

札幌市は市政情報センターといい、こちらは中央区北一西二の本庁舎(同上)二階。広報さつぽろのバックナンバーやさつぽろ文庫全巻が何かの役に立つでしょう。



出版ニュース



さくろうと鬼子母

齋藤真佐子



(A5判 222ページ)

療養中の大正七年(一九一八)生まれの母親の、十四歳から

の文芸作品を娘さんがまとめたもの。

七十年前の詩作がよく残っていたと感心しますが、作者はもともと文学少女だったようです。詩のほか短歌や小説、随筆とジャンルは広く、中には五十歳を過ぎてからの詩も。病に倒れるまで、旺盛な創作意欲を持ち続けていたのです。同じように創作に携わっている娘さんの後書きの、母への視線があたたかい。

句集 向日葵

小黒宏

俳句歴約七十年。今年、米寿を迎えての第二句集です。

第一句集は昭和六十一年(一九八六)の「雪国」。今回はその後の四百二十八句をまとめています。
向日葵やフラメンコこそ火の踊り
向日葵や素戔嗚尊天駆け



(A5判 136ページ)

葦牙正賞、朝日新聞社賞、札幌市民芸術祭奨励賞、小樽市長賞特選など数々の賞に輝いて、なお向日葵のごとくなのでしよう。

句集づくりにも関心――

本づくりへの関心を高めてもらおうと、近隣住民の方々を対象に印刷紙工が開いている本づくりおしゃべり会。今年第二回が九月二十日に、第三回が十月十八日に、ともに印刷紙工二階会議室で開かれました。

三回目は初めての

テーマ、句集づくりでしたが、俳句ブームを反映してか十人の方の参加がありました。

句集づくりについては、印刷紙工も数多くがけている分野。講師の高橋抱石氏も筆牙副主宰とあって、わかりやすい説明に、句集発刊への意欲をかき立てられた参加者も多かったようです。

句作がある程度まとまったら、句集発刊の構想を練ることにも取りかかっているかでしょうか。作品を年代順に並べるだけで、立派な自分史になることは間違いありません。

- 本作りの無料相談を承ります。
印刷紙工(☎011-561-3597)または編集工房海(☎011-623-6652)までお問い合わせ下さい。
- 5人以上のお集まりで会場をご用意いただければ、日時等をご相談のうえ“出前・本づくりおしゃべり会”に参加します。
- 小紙をご希望の方には、定期的に無料でお送りします。印刷紙工までお申し込み下さい。